

共通機器予約における既成無償システムの活用とその課題

○矢野 雅司

徳島大学 技術支援部

1.はじめに

徳島大学先端酵素学研究所は 3 つの建屋を有し、それぞれに共通機器を設置している。現在、先端酵素学研究所 A 棟に 23 台、B 棟に 42 台、藤井節郎記念医科学センターに 40 台、計 105 台の共通機器が設置されており、主に技術職員 1 名と補佐員 2 名の計 3 名で運用を行っている。

これまで予約は紙ベースで行っていたが、今回、無償のウェブ予約システムへと移行したことで得られたメリットとデメリット、さらに今後の運用に向けた課題について報告する。

2.ウェブ予約システム導入の経緯

これまで先端酵素学研究所では、機器の予約を紙ベースで管理していた。しかし近年、ユーザーの利便性向上が求められるようになり、ウェブ予約システムの導入を検討することとなった。

当初は、徳島大学の医歯薬学系部門で既に利用されていた「研究支援ネットワークシステム」の活用を検討したが、同システムはセキュリティ上の制約から学外ユーザーの利用が想定されておらず、学内外の利用を前提とする本研究所の機器運用には適さなかった。

また、研究所独自に外注してシステムを開発する案も検討したが、先述した「研究支援ネットワークシステム」も 20 年近く使用されており、将来的に大学全体で新たな予約システムを構築する可能性もあることから、大きなコストをかけずに暫定的に運用できる無償のウェブ予約サービスを導入する方針とした。

3.ウェブ予約システムの概要と運用状況

今回導入したウェブ予約システムは、月間の予約件数に応じて料金体系が決まっており、共通機器のこれまでの利用実績から、無料プランでの運用が可能と判断した。まずは一部の機器に試験導入を行い、紙からウェブへの移行が円滑に進んだことを受けて、順次他の機器にも展開した。

現在では、計 51 台の共通機器において本ウェブ予約システムを活用している。今後は、さらなる機器への展開や、運用面での課題の整理を進めていく予定である。

謝辞

本発表表において、先端酵素学研究所共同利用機器運営委員会の皆様のご協力に感謝いたします。